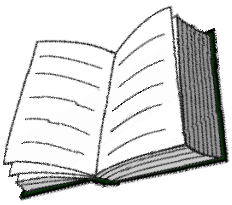

DG的0年代のススメ

新聞や週刊誌で書評を執筆している人１５１人が
２０００～０９年の１０年間に出た本の中からベスト５を挙げている企画があり
今回はそれのＤＧ版です。

ちなみに本家の０年代のベスト１０は以下のとおりです。

（１）銃・病原菌・鉄　ジャレド・ダイアモンド著　倉骨彰訳　草思社　００年
（２）海辺のカフカ　村上春樹著　新潮社　０２年
（３）告白　町田康著　中央公論新社　０５年
（４）磁力と重力の発見　山本義隆著　みすず書房　０３年
（５）遠い崖（がけ）　萩原延壽著　朝日新聞出版　８０、９８～０１年
（６）博士の愛した数式　小川洋子著　新潮社　０３年
（７）木村兼葭（けんか）堂のサロン　中村真一郎著　新潮社　００年
（８）東京骨灰紀行　小沢信男　筑摩書房　０９年
（９）孤独なボウリング　ロバート・Ｄ・パットナム著　柴内康文訳　柏書房　０６年
（１０）トランスクリティーク　柄谷行人著　批評空間　０１年

YUKA

2000 年になってから印象に残っている本。

・子どもの心のコーチング　菅原裕子（著）０７年
　子どものやる気や責任感を育てることこそ子どもの生きる力に繋がっていくということがとてもわかりやすくやさしい言葉で書かれてます。ここ数年、ママになった友達におススメしてます。

・少女　湊かなえ（著）０９年
　衝撃的だった告白の次の作品で、あまり期待しないようにと読んでみました。中盤くらいから、えー!?そう来たか！な展開で思春期の頃の心理描写も上手いなと思いました。

・海街 Diary　吉田秋生（著）０７年
　私はこの人が本当に好きだなぁとまた痛感した漫画。例えば、登場人物の言葉「人は見たいものだけを見て、信じたいものだけを信じる」「思い出は　蛍の光のように　ある時は輝きを増し　ある時は消え入りそうになり記憶の奥深いところから　浮かびあがってくる」あぁ、今からもっかい読もう！とまた思う本。

今年あったことを振り返ることすら「えぇっとね～」とすんなり出てこない頭で、10 年を振り返ってみました。小説や漫画はごく最近のものがすぐに出てきて、もっとあるはずだと思っても、よく考えると 10 年以上前のものだったり（汗）
欠かさず見ていたドラマは、、、と思い起こしても、大奥や白夜行とか見てたな～他は、、、mother の子役がヤバいくらい可愛かったなぁ、とほんの最近のことしか出てきません。
ただ、自分の中でのこの 10 年は大きな変化の期間ではありました。
まず 2 人目の子どもを授かったこと（2002 年）
それから大学に入学し卒業したこと（2004 年～2008 年）
大人になってからの勉強は、本当に意義のあるものになりました。欲張って 150 単位を取得、無事に 4 年で卒業しましたが、この期間は通常の家事・育児に加え、毎日 2 ～3 時間勉強して、1 時間はピアノを弾いていました。慢性的な寝不足でしたが、とても充実した時間でした。
子どもから学ぶことも多く、現在進行形で子どもから人間らしい営みを教わっています。
以前に、私の 3 人目を予測する声が上がってましたが、残念ながら増えたのはわんこでした（笑）子どもは大勢の方がいいと常日頃思ってますが、わんこもカワイイものです。
子どもが 6 人いる友人と、わんこを 7 匹（ワブラドールからチワワまで）飼っている知り合いがいますが、二人とも賑やかで幸せそうです。孤独ではないということは、すなわち不幸ではないと言えそうです。（幸福かどうかはまた微妙ですが・笑）

TOMY

「２０００～２０１０年のお薦め作品」

この 10 年というと、う～ん、映画は「クライマーズ・ハイ」かな。
小説はそもそも読まないのですが、浅田次郎の「鉄道員（ぽっぽや）」くらいかな、と思ったら 1997 年でしたので該当せず、従ってありません。
ドキュメンタリー作品であれば、以前、ご紹介した「原爆を投下するまで日本を降伏させるな」でしょうか。
ドラマは、韓国ドラマですが「宮廷女官チャングムの誓い」でしょうかね。
漫画は、最近読む機会もないのですが、次男がハマッていた「リラックマ」シリーズでしょうか。 これは、結構、内容が哲学的で深いんですよね。

０年代のお薦め作品を考えた。「乙一」「宇江佐真理」「金城一紀」「センセイの鞄」「博士の愛した数式」「ジョーカーゲーム」「ノッキン・オン・ヘブンズ・ドア」…。そんな聞き覚えのある名前しか浮かばない。私には新しい面白さを発見する力が不足しているみたいなので、今更感があるのを承知で「ＳＰ」映画化記念で金城一紀をフィーチャーします。

金城一紀は寡作で「GO」「レボリューション No. ３」「フライ，ダディ，フライ」「対話篇」「SPEED」「映画篇」の６冊の小説しか書いていない。直木賞を取った「GO」はあまり好きではないが、在日のテーマはこの人の話の幹を成すものなので真正面から扱った「GO」が代表作と言ってもいいのかもしれない（私が ¨ かも ¨ と言っても、世間的には全くそのとおりなのだけど)。「レボリューション No. ３」「フライ，ダディ，フライ」「SPEED」の３部作の登場人物にもザイニチの朴舜臣がいるのも在日金城一紀の主張。
高校生男子の努力、友情物語は苦手だけど、この作品群はまっすぐなおバカたちの切ないまでの真剣さが心地よい。映画「フライ，ダディ，フライ」の朴舜臣（岡田准一）と、頼りないサラリーマン鈴木一（堤真一）のコンビがその後、役どころを逆転させ金城一紀初のドラマ脚本「SP」で復活した。

２００７年に３ヶ月間深夜枠で放映されたこの番組は、かなり密度が高いドラマだった。脚本の面白さ、映像の新しさ、音楽のかっこよさ、岡田准一のアクション、堤真一の苦悩…そのどれもに魅了された。
話も手のかかり具合も映画のようなドラマだと思っていたらこの秋、映画になった。ドラマ終了の翌年に「SP」のＳＰ（ややこし）があって以降音沙汰なしだったのでこの映画は待ちわびていた。ただ私は映画にはあまり期待していない。もともと特番で時間を長くするものよりレギュラー番組が好きだし、放送されたのが３年前なのでドラマの復習に時間を割くだろうし、今度の映画も来年３月の「革命篇」へとまた続くものだから。
しかし、ドラマから続いているので見ないわけにはいかない。こうやって思わせぶりな終わり方でドラマから映画へ続く今の流れは非常に好ましくない。続編を作るのはいいけれどドラマならドラマ、映画なら映画の中できっちりと完結したうえで新たな話を作ってもらいたい。続いたときの気持ちを持ったまま新作を３年も待つのは難しい。

ところで、ドラマの「ＳＰ」にはラーメンズの片桐仁も５話～７話にＳＰに守られる方で登場した。とても愚かな役で残酷な結末の話だった。仁さん以外にも賢太郎のお芝居メンバーの野間口徹（公安の田中一郎）や平田敦子（庶務の平川）もレギュラー出演している。
賢太郎も知的な犯人役でいつの日か！！

CACCO

小説

・**「博士の愛した数式」**　小川洋子　０３年

映画を観たらとても面白かった。続けて本を読んだら本もとても面白かった。そこで小川洋子さんの作品をどどっと一気読み。無国籍な作品が多い中「博士の~」は異色かも。

・**「コンセント」**　田口ランディ　００年

「アンテナ」「モザイク」で三部作。エグいんだけど迫力で読ませます。消えた高齢者のニュースを観ているとなぜかこの本を思い出す・・

・**「海辺のカフカ」「１Ｑ８４」**　村上春樹　０２年、０９年

やっぱり春樹さんは押さえときましょ。

漫画

・**「ばがぼんど」「リアル」**　井上雄彦　現在も連載中。

「ばがぼんど」は原作吉川英治の宮本武蔵もの。とは言っても井上雄彦の人生観を描いているのだと思う。「リアル」は障害者バスケがテーマ。**「スラムダンク」**（９０～９６年）と並んでバスケ漫画の最高峰！っていうか、漫画好きなら絶対読んどかなくちゃ。

・**「菱川さんと猫」**　萩尾望都　１０年

大好きな萩尾先生の最新作。原作つきだけれど完全な萩尾ワールドです。過去の作品の偉大さに現在が隠れがちだけれど、いや、十分面白いです。

・**「鋼の錬金術師」　荒川弘**　０１年～１０年

最近完結したけれど単行本読者のわたしは最終巻をまだ読んでいません。ゲーム世代漫画という先入観をつい抱いてしまうけれど、いやいやおばさんでも十分読めます。

・**「アンティーク～西洋骨董洋菓子店」**　よしながふみ　０１年

映画化された「大奥」が現在話題の作家さん。ゲイの話が多く、根っから日蔭者根性の登場人物たちがけなげに真面目にオチャメに生きてるところに共感。テレビドラマも、すごく面白い！

映画

・**光州事件５・１８**　　０８年

難しい題材を映画として面白く見せることに成功した数少ない作品のひとつ、と思います。

・**グラン・トリノ**　　０８年

クリント・イーストウッド監督、主演作品。日本人の美学のようなものをハリウッド映画なのに感じます。ラストのために物語が進行していくような伏線も巧み。

同じクリント・イーストウッド監督作品の**チェンジリング**（０８年）も面白い。でもなに

しろ長くて暗くて残酷なので２度観るのには不向きかも。

・大いなる陰謀　　０８年

ロバート・レッドフォード監督作品。この邦題タイトルだけで観る気が失せる人も多いと思うが、実は立派な社会派ドラマ。どうやらわたしは俳優さんが撮った映画が好きらしい。

･隠し剣鬼の爪　　０４年

時代劇ブーム、藤沢周平ブームはまだまだ続いているようですが、なんたってこの作品。山田洋次の脚本が素晴らしい。そして方言が美しいんでがんす。

･ペイ･フォワード可能の王国　　００年

世界中が幸せになる方法を発見する少年･・現代のお伽話？いえいえ、きっと現実にだって起こりうるはず。

[2000 年以降の印象に残っているお勧め作品]

映画：近年ですが、やはり３Ｄ映画の幕開けがポイントでしょう。アバターとアリスを観ましたが、時間が経つと、何故かアバターの方が印象に残っています。始めは変な顔で嫌だと思っていたのですが・・・。

ほかには、タランティーノのキル・ビルでしょうか？Vol.1 の方が好きです。ルーシー・リューがかっこ良いです。終わりのクレジットで梶芽衣子の「恨み節」が日本語でずぅっと流れるのもよかったです。

ロード・オブ・リングは３部作きっちり観ましたが、必ず途中でうとうとしてしまったという記録が印象に残ります。非お勧め作品！

武陜映画ではやはりグリーン・ディスティニーでしょうね。チョウ・ユンファもさることながら、ミシェル・ヨーとリャン・ツイイーのカンフーが印象に残る映画でした。

アニメではスタジオジブリ作品が粒よりですが、その中で「となりのトトロ」と「千と千尋の神隠し」を推します。失われゆく子供の頃の田舎の源風景へのノスタルジーですね。トトロやネコバスはキャラクターとして好きな動物です。

ビデオ：　本当は映画の項でしょうが、映画館で観たのが「映画」、ビデオで借りてきて家で観たのが「ビデオ」です。

最初は女流監督のイケルシニバナです。独立系というのでしょうか？低予算かもしれないけれど、かなりのインパクトのある映画でした。

最近はテレビドラマにも凝っています。華流というのかな、武侠もの中心です。グリーン・デスティニーに刺激を受けて、観るようになりました。多くは 40 話ほどあり、観終

わるのにかなり根気が要ります。韓流ほどではありませんが・・・。
中でも、金庸の原作に基づく「天竜八部」が最も印象に残っています。目下は書剣恩仇碌を観ている途中です。男優は中国人好みなのかゴツイ感じの人が多く、韓流とはだいぶ違います。しかし、女優はきれいでかわいい人が多く、小生の好みに合います。そのほとんどの女優さんがカンフーで戦うので、その落差がまた素晴らしいです！

アニメでは涼宮ハルヒシリーズがお好みです。脇役のキョンの独白が趣を出していると思います。個人的には長門有希のキャラも好きです。（ちなみに、相沢沙呼の「午前零時のサンドリヨン」の主人公西乃初のキャラは影響を受けていないかな。ポチこと須田君もキョンみたいだし。）
ところで、Youtube には、憂鬱のアニメのエンドクレジットに被る「ハレハレユカイ」の集団ダンスが沢山アップされています。外国の投稿もあるのでユカイです。

書籍：　小説は読み飛ばしだし、マンガはあまり読まないしで該当はほとんどなしです。
ただ、西岸良平と諸星大二郎の本は買い続けています。いまも続いているものですが、前者は「三丁目の夕日」と「鎌倉ものがたり」のシリーズが、後者では「西遊妖猿伝」が推薦に値します。

P.S.　企画とは直接関係がありませんが、youtube つながりで一つ。
1984 年に発生した印度ボーパールの化学工場爆発事故のレクイエム動画があります。youtube のようなおとなしいサイトでは観られませんが、大学の授業で使おうと、あちこち探していたら、大変コワイ動画が見つかりました。あまりの悲惨さと恐ろしさで 2 分間だけ見て消してしまいました。授業で映したら 1/3 位が失神しそうな内容でしたから。現実のものなので、サダコのテレビ以上に怖いものでした。

KEN

【小説】
・容疑者Ｘの献身(2005/08)　　東野圭吾　文藝春秋
東野圭吾の作品は概ね複雑なトリックと触れたくない感情の部分をえぐるものが多く読後感の良くないものが多かったが、この作品は嫌味が無くタネを明かせば簡単だが捜査の視点ずらしのトリック一点に絞り犯罪を構築したところが面白く刑事と犯人の捜査過程におけるサスペンス感覚がいいし読者に疑問を抱かせる伏線を最終章で解決しているあたりも上手いと思った。

・ジョーカーゲーム(2008/08)、ダブルジョーカー(2009/08) 柳広司 角川ｸﾞﾙｰﾌﾟﾊﾟﾌﾞﾘｯｼﾝｸﾞ
戦前から戦中の日本および海外を舞台に日本陸軍内に隔絶的に組織さスパイ組織と組織員にからむ連作短編集。史実はもとより当時の風俗、社会事情、人心をさりげなく描写しながらその一つ一つが伏線となって最後の謎解きにおいてジグソーパズルのように構築されているところに感銘。痛快感があり史実的に読める部分も多く古びない作品だと思う。

・海の翼(2010/01)　秋月達郎　新人物文庫
これは最近読んだ本。1890 年に起きた紀州沖でのトルコ軍艦の海難事故を救済した島民と国をあげての帰国援助の顛末を書き、その恩返しとして 105 年後に起きたイラン・イラク戦争の際に日本人の救援機を出せない日本に代わりトルコが救援機を出すという美談。無償の人助け、恩に報いるという想いの大切さが伝わってくる。日本人は海難事故のことなどほとんど知らないのにトルコではいまだに感謝の想いが語り継がれていることにも感動する。

【漫画】

・ＪＩＮ-仁-(2000/09～連載中)　村上もとか　スーパージャンプ
最先端の技術を持つ脳外科医が突如、幕末の江戸時代にタイムスリップし医療器具も薬品も存在しない時代に知識と工夫で当時の難病、はしか・コロリ・天然痘、梅毒などに立ち向かう。緊迫感と真摯な医療活動の描写に感動する。元々は作者が遊女の事を調べていたおり、身売りした娘が最後には梅毒で命を落とすことが多かった事実を知りせめて漫画の中で救いたいと思ったのがきっかけという事もあり、青かびからペニシリンを作り出す描写はかなり具体的。大沢たかお主演でドラマ化されたがマンガの感動的な雰囲気まで伝わってこなかったのが残念。続編のドラマ化が予定されているが期待薄かな？

【ドラマ】

・チャングムの誓い(2004/10-2005/10)　ＮＨＫ（韓国ＭＢＣ2003/09-2004-03）
休職中に再放送で見てハマった。カットされている部分が多かったのでＤＶＤやインターネットの動画で見なおしかれこれ 10 回は見ているが飽きない。朝鮮王朝の歴史・風俗・文化・階級制度を再現しながら前半は料理対決、後半は医療を基本に権力闘争の構図をからめたストーリー。礼儀作法や風俗・文化もすんなり理解できて興味深く楽しめる。支配階級が長く国を治める身分制度を江戸幕府が下克上の転換として取り入れたのもよくわかる。料理は薬膳料理が主なので彩りに現在の料理もののような派手さはないが手際の良さの描写が美しい。気になったのは外のロケが多いので虫が飛び回っているのが目立ったがこればかりは監督にもどうにもならんだろうな。

・不毛地帯(2009/10-2010/03)　フジテレビ

山崎豊子原作で過去に映画化もドラマ化もされているがフジテレビ50周年記念として唐沢寿明主演でドラマ化したもの。著者の作品は長編が多く一本の映画にまとめて作品の良さを出すのは難しい。この作品を観て連続ドラマで制作するのが合っていると実感した。次々発生する問題のテンポとタイプの違う三人の女性の恋愛をからめ内容が硬くなりがちなところを女性にも楽しめる作りになっていて良かったし重厚なキャスティングにも満足できた。残念ながら視聴率は伸びなかったのは舞台が政治・経済の場で内容が重かったのかも知れない。

【映画】

映画館へ足を運ばなくなって久しくあまり観ていないので良し悪しを言える立場にない。

期待したレッド・クリフ Part1・Part2(2008/11・2009/04)、インディジョーンズ４(2008/06)、ターミネーター４(2009/06)もそれほどでなかったし。昨今は特撮、ＣＧ流行りでその時は楽しめても心に残るものが少なくなったようだ。観た中で気に入った作品は

・デス・ノート(2006/06)、博士の愛した数式(2006/01)、カフーをまちわびて(2009/02)など。

「カフー･･･」はストーリーは読めちゃうし何てことない作品だけどロケ地の沖縄の風景とゆるゆる感が心地よく感じたのは年のせいか。

Y.YAZAWA

０年代（２０００～２０１０年）のお薦め作品

映画を見るのも、本を読むのも大好きですが、それがいつ作られたのかということにはあまり関心がないので、０年代の作品かどうかよく分からないまま、最近僕が見た映画、読んだ本で面白かったと記憶に残っているものを列記します。

Railways（映画）

僕の生まれ故郷、島根県平田市（現在出雲市に合併）を舞台にした映画。封切の日が待ちきれずに映画館へ足を運んだ。風景・人情が懐かしい。のどかな田園の中を電車がコトコト走るラストシーンには思わず涙した。中井貴一の好演が光る。これは間違いなく2010年作品。

母べえ（映画）

難点を言えば吉永小百合演じる母べえがあまりに理想的な女性であること。非の打ち所

のない理想的女性というのは時々映画に出てくるが、非の打ち所のない理想的男性というのは見た事がない。男性主人公は必ず何らかの欠点を持っている。頑固だったり、異性にだらしなかったり・・・どうしてだろう。監督の多くが男性だからだろうか。

ニューオーリンズ（映画）

カサブランカの原型なのではないかと思ったが、こちらの方が後。カサブランカは 1942 年の作品。こちらは 1947 年とか。カサブランカのように酒場を経営するカッコいい男性がいて、その酒場では洒落たジャズが演奏されている。そこに若い女性が現れて・・・・ストーリーがよく似ている。音楽の素晴らしいところも同じ。

めぐり逢い（映画）

デボラ・カーの美しさ、それに尽きる。これを見てからデボラ・カーの出演作品を全部見てしまった。

或る夜の出来事（映画）

1934 年の作品らしい。映画の面白さの要素の全てが缶詰になったような作品だと思った。

グラントリノ（映画）

これは多分 0 年代作品。クリント・イーストウッドの作品では一押しと思う。あの頑固さがたまらない。

マンマミーア（映画）

音楽が良かった。主演がメリル・ストリーヴスだが、ちょっとイメージが合わない。メリル・ストリーヴスはロバート・デ・ニーロと共演した「恋に落ちて」が良かった。インテリでちょっと生活に疲れた風情がよく合っている。この映画の主人公は、ちょっと蓮っ葉な感じが必要なんじゃないだろうか。メグ・ライアンだったらもっと良かったと思う。いや、メグ・ライアンは僕は大好きな女優です。勝気なところ、蓮っ葉そうに見えて芯は賢い、いいなあ。

靖国（映画）

日本人によってこのような映画が作られなかったのはある種の恥だと思った。これを見て 8 月 15 日に靖国神社へ行ってみる決心をした。

光州５・１８（映画）

ヨン様などの韓流スターに興味はないが、韓国映画の面白さを堪能した。空挺部隊が投入される前の光州における反政府デモと、27 日以降の後日談が語られていたらもっと良かった。女優の美しさ、ストーリーの面白さ、男優の行動のカッコ良さ、画面の美しさ、音楽のせつなさ、歴史の真実を知る喜び、そういった良い映画の要素が全てある。

グッバイ・レーニン（映画）

社会主義・共産主義といえば悪者のイメージが定着してしまったが、それでもやはり住めば都。一種不思議なノスタルジー・暖かさはあるいは貧しさが持つ特有のものなのか。共産党が倒れた東ドイツで母親に善き昔を再現しようと努力する若者が滑稽な涙を誘う。

四人はなぜ死んだのか（本）

和歌山毒入りカレー事件を女子中学生が追う。当初新聞は「食中毒」と報じた。「カレーで食中毒になるはずがない。インドのような食べ物が腐りやすい風土に適した食べ物としてカレーが生まれたのは、食中毒に最もなりにくいからだ。」との疑問からスタートした女子中学生が夏休みの宿題として取り組んだ問題。上質な推理小説のように事件が展開する。

新哲学入門：楽しく生きるための考え方　板倉聖宣　（本）

座右の本。コメントなし

アルジャーノンに花束を　（本）

知恵遅れの青年が最新医療の成果である手術を受け、超天才に生まれ変わる SF。知恵遅れの時は人気者だった主人公が知性を獲得する過程で次々に友を失う。それまでコミュニケーションが取れていた人達とも意思疎通が不自由になる。人間にとって知性とは何か。

天才数学者株にハマる（本）

現代は「ある数学者株式市場で遊ぶ」なのだが。数学の面白さがパックされている。

遺伝子さんこんにちは（本）

分かる、とはこういう事か！どうして遺伝子の構造が分かったのか。

環境主義は本当に正しいか？（本）

チェコの大統領が環境問題に疑問を呈す。

「環境主義者の自然に対する態度は、マルクス主義者の経済に対する態度によく似ている。」「経済や自然という大きなシステムを人間がコントロールできると考えているのが間違い。大事なのは人間の自由だ」という考えに大賛成！

おまけ。絶対見てはいけない、というか僕が大嫌いだった映画

ダンサー・インザ・ダーク（映画）

映画はやっぱりハッピーエンドじゃないといけないと思う。見た後暗～い気持ちになるのは嫌だ。どうしてお金を払ってまで暗い気持ちにならなきゃいけないの？

ハッピーエンドの映画と自分の贔屓のチームが勝つスポーツの試合とは同じ効果がある。幸せな気分になりたい。

読み物

・マネージャー　岩崎夏海

本の表紙と言い、ペンネームと言い、すっかり女性と思っていたら、TV でおたくっぽい男性が写っていた。誕生日に i-pod　touch　を買ってもらったので、電子書籍として

購入してみた。表紙を電車内の衆人環視の中で見せている勇気が無かったのだ。文章はあまりうまくないが、ドラッガーの原文が引用され成功していくさまが、企業本としても面白かった。内容は女子高校生が友達のために嫌いな野球部のマネージャーになる話。困難にぶち当たるとドラッガーの経済書からヒントを得て解決していくさまが述べられていく。しかし、なんでこんな難しい本を女子高校生が選んだのだろう。それなりの理由は書いてあるものの、うさおじゃ無理だ。

・博士の愛した数式　小川洋子

数学はあまり得意じゃあない。そりゃあ多少は工科系の企業に居るので馴染みが無いと言う訳じゃあないが、日出彦さんや矢澤さんのように愛読書として公式集を持ち歩いちゃあいない。ちなみにうちの会社の鉄道おたくは時刻表を常に携帯している。保存用の大判のものと、携帯用のポケット版のものだ。うさおが興味あったのはやはり素数、友愛数。で、どちらかと言うと数学者の歴史が知りたいなという思いを沸き立たせてくれるのが本書だ。父の書棚に関 孝和の解説書のようなものがあった。微積分の開祖だと言う。兎も角もそんなことを思い出させてわくわくする書だ。

・文福茶釜　黒川博行

美術界、骨董界の裏話のような美術品ミステリー。美大を出て高校教師となった筆者の最も得意とする分野だ。このあたりは「何でも鑑定団」や「ギャラリィ・フェイク」と一脈通ずるところがあって興味が持てる。うさおも高校生の時代には美術部で、油絵具っぽい香りのする世界は好きだ。大阪弁の語り口もとてもマッチしている。古美術の本場は関西かなとも思いこんでいるうさおです。

・喰いタン　寺沢大介

漫画です。食べることが大好きな歴史小説家、高野聖也が食の知識と類まれなる推理力から事件を解決していくストーリーだ。「美味しんぼ」のように天才的な食、美術の創作能力で競技をすると言うものではなく、主人公は何しろ「喰いしんぼ」なのだ。それも度を過ぎた大食漢なのだ。トラック一台分の弁当を喰い尽し、店の食材を空になるまで喰い尽す。食い物が目の前にあると食べずにはいられない。殺人の証拠品ですら食べてしまうのだ。常識的な秘書の出水京子から無闇に食べないように手綱を握られている。この二人の会話が面白い。

喰いしんぼの探偵だから「喰いタン」。んっ、べただな。

観もの

・SP　岡田准一主演　フジテレビ

警視庁警備部警護課第四課に所属する井上は特殊能力「シンクロ：シンパシィ？」を有する警護官だ。結構、ぴょんぴょん飛ぶし、如何にも日本のシークレットサービスっぽい格闘シーンに満足してしまうのだ。ラーメンズの片桐仁も出ていたし、お勧めしたい一品だ。

・チャングム　韓国ドラマ

宮廷女官「チャングム：長今」が水剌間の料理人として名声を極め、医食同源の考え方から女流医師になるまでの物語。時の皇帝中宗の開腹手術など天才的な医術の冴えを見せ、後世「大長今」と呼ばれる人物となる出世物語だ。当時は宮廷料理人より医師のほうが位が下であったようで、その辺の歴史的考察もしっかりとしている。まあ、歴史書にも数行の記録としてしか残っていないようなので、どれほど史実に忠実なのかは知りませんが･･･。

･たそがれ清兵衛　松竹映画　山田洋二

とってもサラリーマンとして身につまされる話です。海坂藩（うなさかはんと呼びます。何かとても美味しいものを連想してしまいます。）の井口清兵衛は、赤貧洗うがごとしで汚れて行く清兵衛を周りはたそがれ清兵衛と呼びます。この設定だけで泣けてくるのはうさおだけ？そんな彼に上位討ちが命じられた。一刀流の達人余吾善右衛門に辛うじて勝った清兵衛は、幼馴染の朋江所帯を持ち前妻の娘 2 人と暮らすのだが、それも 3 年余り、戊辰戦争で清兵衛は死んでしまう。清兵衛の娘が「たそがれ清兵衛は不運な男だという人もいるが、私はそうは思わない。私たち娘を愛し、美しい朋江さんに愛され、充足した思いで短い人生を過ごしたにちがいない。そんな父を誇りに思う」と言うナレーションで終わる。くう～、泣けるなあ。

･ボーン・アイデンティ　　マット・デイモン主演

どう表現したらよいのか知れないが、単なるアクション映画のようではない。大体アクション映画というものはボンド映画のようにあまり感情が入り込まないストーリーになっているのだが、どこかに感情があるような気がする。ブリジット・フォンダ主演の「アサシン：ニキータのリメイク」にように感情入れまくりではないが、無機質に見える裏側に感情が見える気がする。

・アンティーク～西洋骨董洋菓子店　フジテレビ

「う～ん、悪くないねえ～」で始まる常套句、オーナー橘圭一郎の口癖だ。良いとこのボンボンでエリートビジネスマンだったが、急にケーキ屋を始めたくなり田園調布にお店を出した。元プロボクサーの神田エイジ、妖しいレディ・キラーの小野裕介、影と呼ばれるオーナーの幼馴染小早川千影が繰り広げるパティシエ・ドラマ。原作はゲイが絡むがテレビ故かそのニュアンスは薄い。全編を通して劇中曲は全て Mr.Children のものだ。だから Cacco が夢中になってテレビに齧り付いていた。それは兎も角として実際に田園調布にお店を作ってロケをしていたようだ。今は個人の駐車場になっているようですが。作り手の思い入れが半端じゃないところにこのドラマの面白さがあります。ホロリもあり、謎もありで結構楽しめました。

10 年の間に読んだ本はいったいどれだけになるのだろう・・・
読書リストをスルーしてしまった私だが、好きな作家が宇江佐真理さんに定着。宇江佐さんのものはすべて読破。北原亞以子さん、藤沢周平さん、も次々攻略。どれも甲乙つけがたい。
宇江佐真理さんの「雷桜」「甘露梅」「涙堂」などが特に好き。藤沢周平さんの「獄医立花登手控え」のシリーズはある場所で私が書いている「養生所覚書」という時代短編を読んだ方が主人公が立花登と重なるという評を下さり興味を持って読んだものだ。

映画はどうしても古いものに目が行き最近（と言ってももうだいぶ前になるが）観たのは「アリス・イン・ワンダーランド」他は DVD を借りたものとか、TV で観るくらいなのであまり良くわからないが、映画館で観たものの中なら「オールウェイズ・三丁目の夕日」は懐かしさもあり楽しめた映画だった。
宇江佐さんの「雷桜」が映画化されるけれど、内容がどうなのだろうと気になる。

DVD は先日購入した浜田省吾の「僕と彼女と週末に」をあげたい。幕末から現代までの古い写真が延々と続く。歴史好きも必見の一枚でもある。

十年ひと昔と言うけれど、二十一世紀になってはや十年。
DG は十一周年との事、おめでとうございます。
こんなに長く続いている事にまず敬意を表します。何もせずのほほんと DG が届くのを待っている私ですが本当にいつも感謝しております。
これからも末長くお付き合いいただきますよう・・宜しくお願い致します。

今年最後の企画は賑やかに終わることが出来ました。
来年もみなさんの企画への参加をお待ちしています。